

# 市民俳歌柳壇

毎月20日で締め切り、締め切り日の翌々月の広報うつのみやで入選作品を発表します。

特選

すすり泣く雛の声する蔵の中

平松本町 伊藤 安

●特選の選評 この作者は、今年にはひなを飾れなかったと言っている。3月3日のひな祭りが終わると早く納めなければ婚期が遅れるとの言い伝えがある。理由はともあれ「せめて内裏雛だけでも飾ってあげればよかった」と心を痛めている様子が、「すすり泣く雛の声する」の中に作者の心情が伝わって来る。下の句に冷たく暗い「蔵の中」として、「ごめんなさい」と詫言る作者の優しい心遣いが伝わる一句となった。来春には早々と飾ってあげていただきたいと思います。

## 俳句



加茂都紀女先生

入選

春一番能登鉄道の動き出す

築瀬4丁目 升也 幸子

川に沿ふ視野の先まで黄水仙

さつき3丁目 伊藤 幸子

啓蟄や夢に出て来る夫若し

東岡本町 志鳥 香代子

雛飾る認知症の母の手際良さ

平松本町 川野 和美

特選

音楽は夕日と言ひしマエストロ  
オザワは温き残照の中

清原台1丁目 三木 紋子

●特選の選評 何度も病に倒れ、それでも立ち上がり指揮をされたマエストロ。とても繊細で、優しいお人柄だったと聞く。そんな世界のオザワは今、暖かな日輪の残照の中にいるのだと、作者は伝える。結句の名詞止めが効いている。

## 短歌



藤本 都先生

入選

麦踏み帆舟となりて進みゆく  
男体山までを海原とせよ

平出町 田村 成夫

そつと来てフェンスに止まるシヨウビタキ  
手を振るように尻尾を揺らす

下原町 和田 文男

吹きすさぶこれぞ下野のからっ風  
高原颯と呼ぶ人もありぬ

下栗町 田中 洋子

色褪せし着古しのシャツ裏側の  
ほうが濃くなりてもお気に入り

下原町 五十嵐 由美子

特選

半袖もダウンコートも居る二月

緑2丁目 片嶋 青水

●特選の選評 暦の上ではもうすぐ立春。そこまで春が来ているが油断大敵、戻る寒さにしまい込んだばかりのダウンコートを取り出すことになる。そんな気候が二月であると考えれば少々の冬着はたんすに入らずに備えておくべきかもしれない。

## 川柳



佐藤隆久先生

入選

家計簿の不記載額は大事件

西川田南1丁目 宇塚 清司

食欲がないとうそぶく太鼓腹

下栗町 大塚 榮子

これからは私が主役とちあいか

下栗町 土屋 勝美

税おさめ一家を仕切る顔になる

東岡田2丁目 渡辺 眞左

### 俳歌柳壇の応募方法

- 1人各3句(首)以内。俳句・短歌・川柳の併記は不可。
- 対象は市内在住者で、未発表作品。年齢問わず応募できます。
- はがき表面=住所・氏名・ふりがな・応募する壇名。
- はがき裏面=作品(漢字にはふりがなも)・作品への思い。
- 毎月20日までに、〒320-8540市役所広報広聴課☎(632)2028へ。
- WEBによる応募も受け付けます。詳しくは、市☎をご覧ください。

ID 1022877



▲市☎

表

裏

3208540  
住所・氏名・壇名  
ふりがな  
宇都宮市役所  
広報広聴課

作品への思い  
作品への思い  
作品への思い